１．富田の名前の由来と地形

１－１．富田の名前の由来

高槻市の富田は、富田史談によれば律令制以前の天皇家の御料田である屯倉（ミカケ）が富田に置かれており、その役所である屯家（トンカ）が音便変化してトンダとなったといわれています。

安閑天皇(531～535)が皇后の御料地として良田を求めて河内の国に行幸され、地方長官の凡河内直味張(オホコウチノアジハリ)に求めたが、水害が多いとか干ばつ地だとか言い訳をして求めを拒んだ。そこで河を渡って攝津国の三島県主飯粒(ミシマノアガタヌシイヒボ)に求めたところ、光栄なことだとして特に選んだ良田を 40 余町歩を献上した。（日本書紀）

凡河内直味張は大いにお叱りをうけ、その償いとして毎年春と秋の農繁期に鍬丁「(クワョロボ)＝人夫」五百人づつをだすことになった。

その人夫五百人が住んだ場所として・・・現在の五百住の地名に残っている。

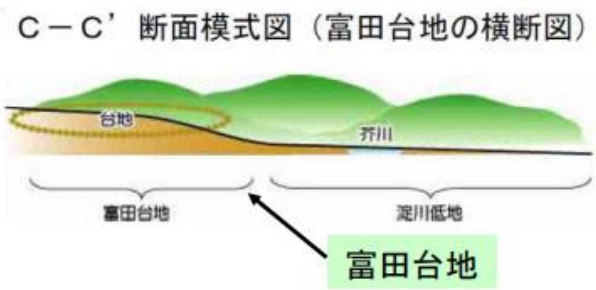
※古代は農地と農民は朝廷(国)のものだった。

「屯田」は大王が直接支配する田地で、その管理のために屯倉が置かれた。
奈良時代の終わりから鎌倉時代まで貴族や豪族や寺院などが荘園を持っていた応和元年（961 年）摂津国島上郡富田荘園を藤原師輔が、子の尋禅への譲り状が残っている。全国に点在する「富田」とよばれる地名の多くは「屯田」が転じたものと考えられる。

この富田は室町幕府八代将軍足利義政(1449～1473 年)の荘園だったらしく、義政の妻日野富子が「富田」に改めたという説もあります

１－２．富田の地形

高槻市は、北は丹波高地に連なる北摂山地、南は大阪平野の北部を形成する淀川低地に伸びており、中央部には日吉台、安岡寺、南平台、奈佐原等の丘陵がつづき、富田台地が南方へ突出しています。

富田台地の特性

○ 富田地区は市内唯一の台地である
○ 阿武山を後背にもつ富田台地の上にあり自然災害に強い
○ 北摂連山の花崗岩質にしみ込んだ良質な伏流水がある
○ 南斜面に在って日当たりが良い
○ 農耕に適した土地が展開している(五社水路)